

所属・氏名（ 健康科学部 医療福祉学科 氏名：三吉 愛子 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著書) 『保育原理』	共著	2019 年 3 月	溪水社	著書全体の概要: 保育者を目指す学生の専門性養成の必修科目「保育原理」テキスト 著者名: 西川ひろ子・山田修三・中原大介(監修・編集) <u>三吉愛子</u> 他 12 名、計 17 名) 担当部分の概要: 第 7 章「幼保連携型認定こども園教育保育要領による保育」1 節「幼保連携型認定こども園教育および保育の基本」2 節「幼保連携型認定こども園教育保育要領による教育および保育の目標」3 節「幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」(担当ページ: pp62-71、単著)
2	(学術論文) 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の変遷 -計量テキスト分析による比較を通して-	共著 (筆頭)	2021 年 3 月	広島国際大学総合教育センター紀要 第 3 号, pp. 31-52, 2020 年 (査読付き)	論文の概要: 戦後 1948(昭和 23)年から今日までに刊行、告示された幼稚園教育要領における教育内容の変遷過程を明らかにし、特に領域「人間関係」に明記されている文言とそのつながりに着目して可視化し、計量テキスト分析によりその年代の特徴を明らかにした。
3	(学術論文) 明治期における山口県の幼稚園教育に関する研究-日本最古の仏教系私立幼稚園華浦(現鞠生)幼稚園のはじめに着目して-	単著	2019 年 3 月	広島国際大学 医療福祉学科紀要 第 15 号, pp. 13-29, 2019 年	論文の概要: 明治期に開設された日本最古の仏教系私立幼稚園華浦(現 鞠生)幼稚園のはじめに着目し、山口県の幼稚園教育とその歴史的背景について紐解いた。幕末から明治期に活躍した中央の歴史的人物と、華浦幼稚園との繋がりは関係性があり、設立と保育内容に大きな影響を与えた。
4	(学術論文) わが国の幼稚園における「会集」の歴史-東京女子師範学校附属幼稚園を中心に-	単著	2018 年 12 月	広島国際大学総合教育センター紀要 第 3 号, pp. 43-52, 2018 年 (査読付き)	論文の概要: 現代の幼稚園や保育所で行われている朝の会の起源を、東京女子師範学校附属幼稚園の実践「会集」をもとに歴史的変遷に迫った上で、日本の幼稚園教育史における「会集」のもつ意義を論考した。
5	(学会発表) インクルーシブ保育を基底とする保育者の専門性に関する一考察 -場面緘黙とその周辺幼児を中心に-	単著	2020 年 5 月	於奈良教育大学 日本保育学会第 73 回大会	発表の概要: 保育者への場面緘黙とその周辺乳幼児の調査をするために、保育者の認知度を把握するプレ調査を行った。その結果、場面緘黙に関する専門的知識理解が皆無の保育者が約 7 割を占めていたことから、今後のインクルーシブ保育構築の重要性が示唆された。
6	(学会発表) 鞠生(華浦)幼稚園教育実践内容の「会集」に関する研究-大正 11 年度の保育日誌を中心に-	単著	2017 年 11 月	於広島女学院大学 中国四国教育学会 第 69 回大会	発表の概要: 日本最古の仏教系鞠生(華浦)幼稚園に残されていた史料の中でも大正 11 年度の保育日誌の読み解きから、特に「会集」の内容について分析を行った。その結果、「会集」と宗教性についての関係性が大きく、大正期における仏教系鞠生幼稚園の保育者と子どものやりとりや様子を、実践レベルで把握することができた。